

今回の上映作品



上映 |
14:00

開場・受付開始
13:30

チケット |
700円

チケット
申し込みは
コチラ↓

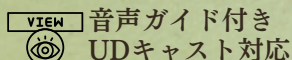


全席自由・
事前予約制

鑑賞サポート対象公演



※テキストデータ有（終演後要返却）



※スマホ等機器の貸出はございません



会場 | 桜美林芸術文化ホール
(ストーンズホール)

11/29(日)

※未就学児のご入場はご遠慮ください ※チケット支払いは現金のみ
※障がいのある方1名につき介助者のみ1名無料（障がい者割引はございません）

＊コード・きこえない、またはきこえない親を持つ聴者の子供

親子の物語が、そしてひとりのコードの心の軌跡が、点描のように紡がれていく――。監督は、本作が9年ぶりの長編作品となる、『そのみにて光輝く』『きみはいい子』の呉美保。作家・五十嵐大氏の自伝的エッセイを原作に、脚本は『正欲』の港岳彦。吉沢亮が、“きこえる世界”と“きこえない世界”を行き来しながら生きる主人公を体現、自身の居場所を見出していく若者の心を繊細に演じた。母・明子役には、ろう者俳優として活躍する忍足亜希子。

やがて母への想いが観る者の胸にも静かに温かく満ちていく、心に響く映画が誕生した。



母と息子、切なくも心に響く家族の物語

Story

宮城県の小さな港町、五十嵐家に男の子が生まれた。祖父母、両親は、“大”と名付けて誕生を喜ぶ。ほかの家庭と少しだけ違っていたのは、両親の耳がきこえないこと。幼い大に

っては、大好きな母の“通訳”をすることも“ふつう”の楽しい日常だった。しかし次第に、周りから特別視されることに戸惑い、苛立ち、母の明るささえ疎ましくなる。心を持って余したまま20歳になり、逃げるように東京へ旅立つ大だったが…。



写真：島津美紗

アフタートーク開催！

※手話通訳付き

本作品の原作『ぼくが生きてる、ふたつの世界』（幻冬舎刊）著者であり作家の五十嵐大（いがらしだい）さんをお招きしてアフタートークを実施します。ご参加の方は上映終了後お席にてお待ちください。

五十嵐 大（いがらしだい） 1983年、宮城県塩竈市生まれ。耳のきこえない両親を持つ、コードとして生まれ育つ。2020年『しくじり家族』でエッセイストとして、2022年『エフィラは泳ぎ出せない』で小説家としてデビュー。「ろうの両親から生まれたぼくが聴こえる世界と聴こえない世界を行き来して考えた30のこと」（その後、『ぼくが生きてる、ふたつの世界』と改題し文庫化）を原作とした実写映画「ぼくが生きてる、ふたつの世界」が2024年9月に公開された。また、『「コード」のぼくが見る世界』では、第71回青少年読書感想文全国コンクール課題図書（高等学校の部）に選定される。他の著書に『聴こえない母に訊きにいく』『拝み屋のおばあちゃんと僕』『その手は明日を紡ぐために』など。

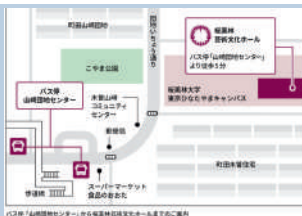
お申込み・お問合せ

<当館Instagram>

桜美林芸術文化ホール

042-739-0071（平日10:00～16:00）

東京都町田市本町田2600-4



<交通アクセス>

町田駅（JR横浜線・小田急小田原線）下車
神奈川中央交通バス（4番・5番バスのりば）から
「山崎団地行」または「山崎団地センター行」で約20分
「山崎団地センター」下車。
「山崎団地センター」バス停より徒歩5分

※キャンパス内駐車場はご利用いただけません。公共交通機関をご利用ください。